



ぶらり神戸第13号

令和2年9月

「神戸市北区の古墳」

兵庫県が古墳の数、日本一（約18,000基、全国で約16万基）というのをご存知でしょうか。古墳というと大阪府堺市にある世界遺産百舌古墳群中の（大仙陵古墳（伝仁徳陵古墳））を想像する人が多いのでは……。大仙陵古墳は日本最大の規模で総面積約46万m²、主軸の長さ486mで、一人の人間が一日に1m³の土を運んだとして、一日に千人を動員しても完成ま



五色塚古墳を望む

でに4年間はかかったと推定されています。

こんなに大きなものがどのように、誰が、何の目的で築造したのか、思いをめぐらしてしまいます。古墳時代の解明は古代日本成立の解明につながります。最近陵墓参考地の調査も一部で始められ、謎多き古墳時代の解明にメスをいれることになるでしょう。

さて神戸市北区には、古墳は確認されたもので47基あり、道場町34基、有野町7基となっています。その内有野町次郎の龍谷古墳は県教委が昭和63年から調査し、発掘調査報告書を作成しています。主体部は横穴式石室で室内の遺物は木棺に使用された釘のみで、石室内入口付近で須恵器3個体の出土と報告されています。須恵器の示す年代を築造年代と考えると7世紀前半といわれています。

ちなみに全国の古墳の大きさランキング100で兵庫県のものは、41位五色塚古墳（神戸市垂水区、194m）、84位檀場山古墳（姫路市、140m）です。

古墳は圧倒的に6～7世紀のものが多く、前方後円墳といわれる大規模な古墳は3～4世紀に集中して限られた地域で築造されています。

秋の深まりを感じるこの季節、近くの古墳を訪ねてみてはどうでしょうか。